

<事業所全体による自己評価> R5.1.14実施

おほしさま園

| 項目 | 選択した理由 | 現状分析 | 解決目標 | 解決方法 | 期限 | 経過 |
|---|--|--|--|---|----|---|
| 20: 非常災害の発生に備え、療育の中で定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか | 対策を行ったが、昨年度に続き評価が低いため。 | <ul style="list-style-type: none"> ・お便りに避難訓練の様子を載せた。 ・親子グループで避難訓練を実施。 ・対面でのフィードバック、お便り帳に様子を記載して返却している。 ・きりんの部屋など、ドアが一つしかない。非常階段等がない。設備に対する不安もありそう。 ・19マニュアルに沿ったの部分が不透明なのかもしれない。学校ではマニュアルのプリントを渡され、実際設定時間に迎えに行く訓練がされている。保護者が何を緊急時と捉えているか不明確。 | 避難訓練を実際に近いものにし、他部署の協力を得、その内容を、保護者に分かりやすく伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのオリエンテーションで、災害伝言ダイヤル等について説明、配布する。 ・個別のみの利用児も含めた避難訓練の日を設定する。 ・実際に非常ベルを押し、他部署にも訓練に協力してもらう。 ・フィードバックを徹底する。 ・グループ便りに予定を記載する。 | 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害伝言ダイヤルを全員に配布できていない。 ・グループだよりやインスタに記載した。 ・フィードバックは徹底した。 ・避難訓練の予定を記載し、きちんと実施することが出来た。 |
| 9: お子さまが所属している保育園・幼稚園で障がいのない子ども達との活動に参加できるような助言がされていますか | 園の受け入れ等行政への働きかけの必要性も感じているが、その他にも出来ることを検討する必要があるため。 | <ul style="list-style-type: none"> ・通園していない利用児も多い。 ・通園を希望していても受け入れられない利用児にどう対応するか。 ・園訪問を知らない保護者もいる。保育所訪問の機能がパンクしないかも心配。 ・グループの職員も保育所訪問に行き様子が見れる、送迎の際に園の雰囲気分かるなど、今年度の良い変化があった。 ・園での様子とグループの様子を関連付けて伝えたことで、そこまで対応してくれていることを初めて知ったと言われた保護者の方がいた。 | グループの職員も園訪問に同行し、多面的な支援を行う、その内容を保護者に伝達する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・送迎や園訪問等、普段から連絡を取り合い、互いに構えるのではなく、子どもの為に一緒に取り組む関係性を築いていく。 ・園訪問記録ノートに聞いたことを書いていく。 ・グループの職員も園訪問に行ける体制づくりに努める。職員間の協力体制が必要。 | 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ・送迎時にコミュニケーションをとることで、園との関係もとりやすくなってきた。 ・グループ担当の日に、他職員にヘルプに入ってもらったことで、グループ職員が園訪問に行ける機会が増えた。今後も継続したい。 |
| 2: 職員の配置や専門性は適切だと思いますか | 1人1人が専門職として関わるために、必要な知識を持って取り組んでいきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員内で、子どもにどう対応するかの意見が盛んになった。 ・子どもの特性に合わせた対応が職員間でよく話し合えており、お便り帳でのフィードバックの評判も良い。 ・行っている療育に自信を持ち、職員間で情報共有することで、保護者に分かりやすく伝えることが出来る。 | 研修で知識を身に付け、利用児のことを一番に考えて支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・こぐまの摂食研修など、個々に専門性を高め情報収集を行う。対応策を多く持つことで、様々な場面で対応がしやすくなる。その内容を、保護者への助言や相談につなげていく。 | 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ・こぐまの研修を受けて、自信をもってグループを回せることが増えた。 ・療育の質は上がったが、時間外労働が増えたり、他職員に負担がかかったり課題もある。 |